

### エミューで地方創生

ダチョウに次いで世界で2番目に大きな鳥「エミュー」。大きなものは成人の身長や体重を優に超える。ダチョウと同じく飛ぶことはできないが最高時速 50 キロメートルを超える俊足を持つ。生息地として知られる豪州では国鳥とされている。そのエミューで関連事業を興そうとしているのが日本エコシステム。従来の業務とは全く関係のない新規事業ながら会社の柱の一つに成長させようとしている。

#### 建設機械から節電システムへ

藤澤博基社長は、日本エコシステムの前身となる会社を起業する前は建設機械メーカーのサラリーマンだった。そのメーカーが会社をたたむことになり、従業員や顧客を引き継ぐ形で建設機械のレンタル会社を設立した。勤めていたメーカーはレンタルも手がけており、福岡地区の責任者だった藤澤社長は、部品供給や与信管理のノウハウも持っており、事業を順調に展開した。

建設機械に続いて始めたのが節電システム事業。ガソリンスタンドやコンビニ、商店、飲食店などにレンタルして普及させた。現在は納入した装置のメンテナンスに特化。全国 8 万 5,000 件のシステムを管理している。その事業も安定していたが藤澤社長は「企業体力のあるうちに新規事業に着手し、軌道

に乗せなければならない」と常に危機感を持ち事業テーマを模索していた。



社内は明るい雰囲気

#### エミューとの出会い



大きくなると成人を超える大きさになる

エミューを知ったのは3年ほど前で偶然だった。日本エコシステムは経営理念に「和をもって貴し」を掲げている。藤澤社長は「商売でもうけようとするだけではいけない」と企業の社会的責任（CSR）を強く意識しており、植樹などのボランティア活動に積極的に参加していた。そこでモンゴルの砂漠化を食い止めようと緑化に取り組んでいる人と出会い、モンゴルでエミューが家畜として飼育されていることを知った。

中小企業新事業活動促進法に基づく経営革新計画の承認を受けたのは15年2月。内容は「エミューの飼育から、産学での共同研究、地域での加工を実施するエミュー事業の展開」。計画期間は14年6月から19年5月まで。承認には、福岡県中小企業振

興センターが協力した。計画承認のメリットを藤澤社長は「計画の策定、承認を通じて会社の方針を明確にできたこと」と振り返る。また計画の数値目標や収支、スケジュールなどが「社長もそれに従う道しるべになった」との効果も実感している。

## 飼育の入り口から商品の出口まで

エミューは雑食で性格がおとなしく、気温差に強いので飼育しやすい。しかし日本で飼育例が少ないためエミューの卵に適したふ化器や検卵器を探し出すなど準備に苦労した。現在、育てながら飼育ノウハウを構築している。将来、エミュー事業のコンサルティングを事業化することも視野にある。

素材としてのエミューは食用だけでなく多くの可能性を秘める。特に脂肪はスキンケア用のエミューオイルとして市販されており、化粧品や医薬品の原料になる可能性がある。日本エコシステムは産学連携で関連研究に取り組み、エミューの用途を広げるとともに付加価値を高めていく。現在の連携先には東京農業大学、九州大学、佐賀大学、京都薬科大学がある。

藤澤社長は、エミューの飼育事業で一定の収益を確保できる仕組みづくりを目指す。そして耕作放棄地を

活用したエミュー牧場を全国に普及させ「地方創生に貢献したい」と意気込んでいる。



エミューを使った加工品



子供のエミュー



エミューの卵はニワトリの卵よりかなり大きい

## 企業概要



藤澤 博基 社長

企業名	日本エコシステム 株式会社
代表者	代表取締役 藤澤 博基
所在地	福岡県筑紫野市二日市中央1の12の22
TEL	092-923-4233
FAX	092-929-2777
Eメール	info@jpeco.jp
URL	http://www.jpeco.jp
社員数	16人
事業内容	省電力装置・新エネルギー機器事業、エミュー事業

